

## 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うスモン患者の 日常生活の変化と感染予防に関する実態調査

坂口 学 (大阪急性期・総合医療センター脳神経内科 大阪難病医療情報センター)  
澤田 甚一 (大阪急性期・総合医療センター脳神経内科 大阪難病医療情報センター)  
小松平美紀 (大阪急性期・総合医療センター大阪難病医療情報センター)  
辻 準子 (大阪急性期・総合医療センター大阪難病医療情報センター)  
野正 佳余 (大阪急性期・総合医療センター大阪難病医療情報センター)  
平井 幸枝 (大阪急性期・総合医療センター大阪難病医療情報センター)  
細田 節子 (大阪急性期・総合医療センター大阪難病医療情報センター)  
藤原 直子 (大阪府健康医療部保健医療室地域保健課疾病対策・援護グループ)  
梯 和代 (大阪府健康医療部保健医療室地域保健課疾病対策・援護グループ)  
浅田留美子 (大阪府健康医療部保健医療室)

### 研究要旨

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、大阪府域におけるスモン患者の療養生活と感染予防に関する実態を明らかにすることを目的にアンケート調査を実施した。特定疾患医療費助成制度を受給しているスモン患者 88 名のうち、調査協力の同意を得たスモン患者 52 名へ無記名式アンケートを郵送した。回答者は 41 名、回収率 78.8%、有効回答者 (適切な同意が得られなかった回答者は除外した) 31 名、有効回答率 75.6%であった。有効回答者は、スモン患者本人が 17 名 (55%)、子 11 名 (35%)、配偶者 3 名 (10%) であった。スモン患者の平均年齢は 82.5 歳。新型コロナウイルス感染症に感染した者あるいは濃厚接触者に認定された者はいなかった。予防接種を実施した者は 27 名 (87%)。接種前は、接種に前向きな回答が得られ、接種後、概ね安心感が得られていた。アレルギー体質や副反応の不安から接種していない者が 4 名おり、今後も接種予定はなかった。困りごととして、感染予防のための外出制限やヘルパー不足により買い物不自由になっていること、施設入所している患者の家族は、面会や外出制限があることなどを挙げていた。

スモン患者の新型コロナワクチン接種率は、全国 65 歳以上の接種率と概ね同じ割合であった。現在 (2022 年 2 月時点)、3 回目のワクチン接種が開始されている。さらに、スモン患者のワクチンの接種状況、接種後の状況を詳細に調査し、情報を提供する必要がある。また、困りごとへの支援を保健所と連携しながら検討する必要がある。

### A. 研究目的

スモン患者は平均年齢 80 歳を超え、下痢などの消化器症状や下肢の感覚障害、歩行障害、視覚障害などの症状から日常生活動作が低下している。新型コロナウイルス感染症が拡大し、感染予防のために外出など

の日常生活が制限され、支障が生じているであろう。また、感染予防として、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が開始され、スモン患者はこれまでの経験から薬に対する恐怖や不安を持っている可能性が推察される。本研究は、新型コロナウイルス感染症の拡

大に伴い、大阪府域におけるスモン患者の療養生活と感染予防に関する実態を明らかにすることを目的に実施した。

## B. 研究方法

大阪府在住で特定疾患医療費助成制度を受給しているスモン患者 88 名のうち、大阪府健康医療部保健医療室地域保健課疾病対策・援護グループより調査協力の同意を得たスモン患者 52 名へ無記名式アンケートを郵送した。調査期間は、2021 年 10 月から 2021 年 12 月 31 日までとした。調査項目は、「基本属性」、「新型コロナウイルス感染症の感染状況」、「新型コロナウイルス感染症のワクチン接種状況等」、「新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に関する思いや感染予防、日常生活で困ること」などであった。

(倫理面への配慮)

本研究は、大阪急性期・総合医療センター臨床医学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

## C. 研究結果

回答者 41 名、回収率 78.8%、有効回答者 (適切な同意が得られなかった回答者は除外した) 31 名、有効回答率 75.6%であった。有効回答者は、スモン患者本人が 17 名 (55%)、子 11 名 (35%)、配偶者 3 名 (10%) であった。スモン患者の平均年齢は 82.5 歳。生活状況は、在宅療養者が 24 名 (78%)、入院中が 1 名 (3%)、介護施設に入所中が 6 名 (19%) であった。家族構成は、7 名 (23%) が独居、配偶者と 2 人暮らしが 11 名 (35%)、配偶者以外の家族と同居している者が 8 名 (26%)、その他は 5 名 (16%) であった。

新型コロナウイルス感染症に感染した者あるいは濃厚接触者に認定された者はいなかった。新型コロナウイルス感染症のワクチンを接種した者は 27 名 (87%) で、13 名がかかりつけ医療機関、8 名が市/集団接種、6 名が入所中の介護施設などで接種していた。1 回目の接種時期は、4 月から 7 月に接種し、5 月から 8 月の間に 2 回目の接種を終えていた。副反応は、「注射部位の痛み」が一番多く、次いで、「微熱」、「発熱」、「倦怠感」、「注射部位の腫脹」などの症状 (図 1) があった。

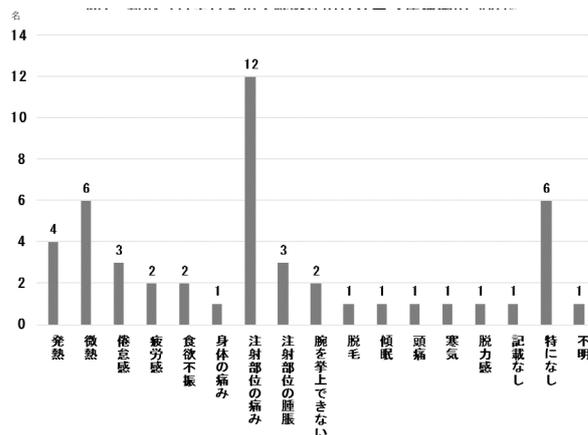


図 1 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種後の副反応

表 1 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種前後の思い

	接種前の思い	接種後の思い
本人	早く接種したい (2名) り患した場合、周囲への迷惑を考えると気が重かった 少し不安でした 受ける前は少し怖かったが「コロナ」にまけたくない 思いで受けた 独居ゆえ強い副反応が出た場合を考え、食料品5日分と解熱剤を用意	安心した (3名) 少し安心した (2名) 孫にも安心して食えるかなと思った コロナの心配があったが安心出来た 受けた後はこれで感染しにくくなったと思いきや安心した が、まだ自粛生活は続けている 難なく済んでホッとしている 義務果たす 受けた後は心が明るく、開放された感じ 接種でき、よかったと思う (2名) 髪の毛が抜けつづけることに不安 オミクロン株流行にそなえ3回目のワクチン接種1日も早く打ちたい
子・配偶者	安心できる 受ける前は少し不安 住居の取替予約が早くスムーズにできたので安心しました かかって死ぬより (笑) かかりつけ医まで、車イスの手配をしたり連れていくのが大変だった	予防接種をうけて安心の感あり 受けた後は安心した 在宅介護で医療関係の人にも安心してもらえるので早く接種することが出来てよかったと思っている 後で、打った人の話からうまく行ったように思った しんどさを別にして、よかった (安心感) 認知症が有り受けたことも忘れていた

接種前の思い (表 1) は、「少し不安」、「受ける前は少し怖かったがコロナにまけたくない思いで受けた」、「り患した場合、周囲への迷惑を考えると気が重かった」など、ワクチン接種に対する不安や感染に対する不安があった。一方、「早く接種したい」という前向きな思いを回答しているスモン患者がいた。接種後は、「安心した」と記載している者が多かった。未接種者 4 名は、「アレルギー体質」や「副反応の不安」などから、接種せず、今後も接種予定はなかった (表 2)。

日常生活の困りごととして (表 3)、「外出制限による運動機能の低下」や、施設入所者の場合、「施設入所しているスモン患者に会えない」と面会を制限される辛さを記載している者、「デイサービスを利用できない」、「買い物ができるヘルパーがない」など、利用できない福祉サービスについて回答があった。未接種者は、「陰性証明を無料で簡単に取れるよう希望する」、「接種証明がなければ利用できないところが生じ

表2 新型コロナウイルス感染症のワクチン未接種者の接種しない理由

	接種しない理由
本人	慢性気管支炎で常に体温が37℃前後で5キロやせて体重が35キロと低体重な事と、3年前脳梗塞で今もたくさん薬を服用、又強いアレルギー体質があり、その薬も服用しているから 薬疹が出やすいので、インフルエンザの場合は、接種量を1/2にしてもらっている。コロナではそういうことはできないとのことでした(病院に相談)
子・配偶者	1. ワクチンの安全性、副反応等への不安：現状のスモン病、糖尿病、他等により、これ以上しんどくならない 2. 現状、ほとんど寝たきりで、外出は2カ月に1回の通院時のみ：小生（記入者：予防接種者）がウイルス持ち込まない様最善の注意をしている 3. 担当医から積極的接種指導もない：R3/5～R3/7に病悪化・併発により入院等行ったが、医師・看護師よりの接種指導等らしきものは無かったらしい！

表3 日常生活の困りごと

	接種者の困りごと	未接種者の困りごと
本人	買物、身内と会う事、支援を受けられなかった 介護保険を利用したいがヘルパーさん不足が深刻で利用できず、お買物が不自由している 通院・入院をのばす できるだけ人との接触を避けて生活しているので早く収束してほしい 外に出ないので足が歩けなくなる。マスクなしで話してこられる方はこまる 配偶者が死去。入院中にあえなかったことが心残り。圧迫骨折もあり入院が多かった。いなかにも離れず困っている おまじりがしづらい 繁華街にでることもないので、平常心である 外出が出来ないので不安とあせりがあったが、今は時々リハビリも出来ている	ワクチン未接種なので友達とかで食事会行けない 陰性証明を無料で簡単に取れるよう希望する リハビリの外出が減り、屋内での生活が増えたので、歩行が困難になった。屋外は車椅子使用ですが、電動の使用を控え、足（けり）で使用するため屋外での事故（転倒）はないが、家内での転倒が増えた
子・配偶者	介護施設のため認知の方も多く、まわりの方々のマスク着用が充分でない 1か月前に介護施設に入所したが、面会できないのがつらい 施設での家族との面会や外出が制限される 外出回数が減少、気がはれない等の状態があった、外出すると食欲や気分等よくなった 飲食業の閉店数が多かった事	①現状：接種無いため介護上ホームのデイサービス利用したいがさせてもらえない ②これから：車椅子で外出する様になっても、接種証明なければ利用できない所が生じたら困る

たら困る」と今後、制限されるかもしれない外出時の生活について記載していた。

#### D. 考察

全国 65 歳以上の新型コロナウイルス感染症の 2 回目のワクチン接種率は 88.95% (2021 年 8 月 31 日時点) で、スモン患者の接種率 (本研究結果) と概ね同じ割合であり、副反応についても概ね同様の症状であった。新型コロナウイルス感染症のワクチンを接種したスモン患者は安心感が得られていた。今回の調査ではワクチンに関する薬品会社名や副反応が出現した日数などアンケート項目に含まれていなかったため、ワクチンの種類による副反応の違いは明らかにできなかった。

日常生活の困りごとは先行研究と同様に、外出制限による運動機能の低下、ヘルパーやデイサービスの利用が出来ず、買い物に不自由するなど、日常生活に支障をきたしていた。独居が高齢夫婦での 2 人暮らしをしているスモン患者が 50% 以上を占めていることから、早急に保健所と連携しながら、相談ができる体制

を見直し、支援を検討する必要がある。

現在、新型コロナウイルス感染が拡大し、3 回目のワクチン接種が勧められている。3 回目のワクチン接種状況や感染予防を考慮した日常生活への支障についてさらなる調査が必要であろう。また、高齢化したスモン患者への情報提供のあり方について検討する必要がある。

#### E. 結論

スモン患者へ新型コロナウイルス感染症に対する 3 回目のワクチン接種を踏まえ、さらに詳細にワクチンの接種状況や思いなどを調査する必要がある。また、行政・保健所と連携を図りながら、相談体制などを見直し、情報提供のあり方や支援方法を検討する。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

#### I. 文献

- 1) 二本柳覚, 田中千枝子; 高齢化したスモン患者の生活実態及び課題に関する調査研究, 日本福祉大学福祉論集 139 号, p61-77, 2018.
- 2) 政府 COI ポータルワクチン接種状況ダッシュボード; [https://cio.go.jp/c19vaccine\\_dashboard](https://cio.go.jp/c19vaccine_dashboard), 2022 年 2 月 7 日検索.
- 3) 厚生労働省; 新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応について, [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_hukuhannou.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_hukuhannou.html), 2022 年 2 月 7 日検索.
- 4) 久瑠聡; 新型コロナウイルス感染拡大がスモン患者の療養生活に及ぼす影響, 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (難治性疾患政策研究事業) スモンに関する調査研究 令和 2 年度総括・分担研究報告書, p111-118, 2021.